特定課題Ⅵ　希少動植物の保全

【実施概要】

1　背景

原生的な自然が残されている丹沢大山地域は、県内でも希少な動植物が多い地域となっているが、シカの影響による林床植生の衰退などにより、希少動植物の生息・生育環境が悪化している。

2　施策の方向性

希少動植物の保全手法等を検討するための基礎情報が不足しているため、第４期自然再生計画では、情報収集が可能な種について生息状況等の把握を進めつつ、モニタリング手法や保全手法の検討を行う。また、植生保護柵内で希少植物の回復が確認されたことから、土壌保全対策等とも連携して、植生保護柵の設置と維持管理による希少植物の保全を進める。

3　第４期丹沢大山自然再生計画の主な取組と成果

(1) 希少動植物の保全手法・対策と調査・モニタリングの検討

- オオタカ、ガン、カモの生息状況調査を行い、保全に係る基礎的な情報を収集した。
- 自動撮影カメラの調査結果を用いて、ツキノワグマとカモシカ、キツネ等の分布情報を整理した。
- ツキノワグマについて、痕跡、目撃情報を収集し、出没、生息状況を把握した。
- 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」を改訂し、「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」を刊行した。

(2) 希少動植物の保護・回復事業の実施

- 絶滅危惧植物種のヤシャイノデの保護増殖試験、遺伝子解析や植生保護柵設置を実施したほか、胞子から培養した小苗を育成して現地へ植え戻した。

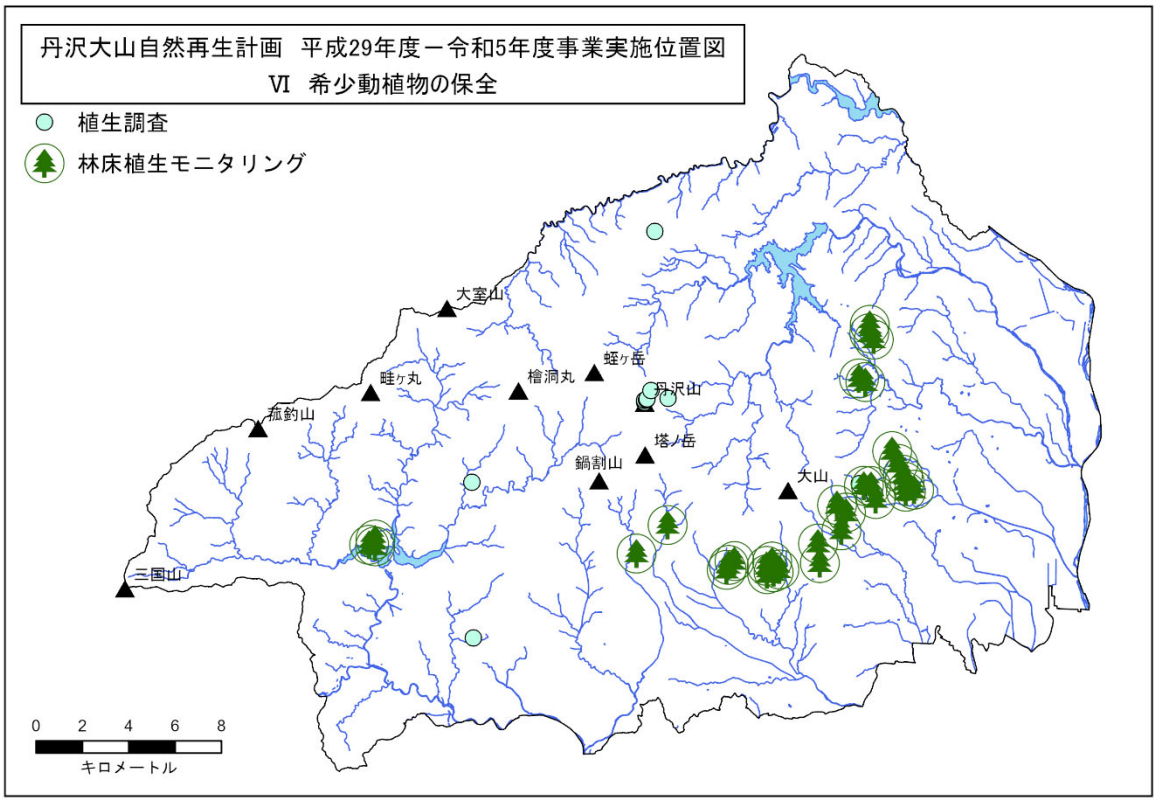

図6-1　事業実施位置図（特定課題Ⅵ　希少動植物の保全）

4　第４期計画の課題

- 現状では他事業に付随して希少動植物の情報を収集しており、定期的に生息状況を把握できている種が少ないことから、体系的な調査が必要である。
- 植物以外の分類群についてレッドリストを更新するとともに、希少動物のレッドデータブックも合わせて更新する必要がある。
- 自然公園法に基づく指定植物について、直近の環境省および県のレッドリストを反映して更新する必要がある。
- ヤシャイノデの生育環境が悪化しているため、保全対策の再検討が必要である。
- 増殖ほう助などにより丹沢在来ヤマメの生息地を保全し、在来系統が確保できる種川として活用できるよう丹沢渓流域の自然再生を図る必要がある。

5　主要施策ごとの事業実施状況

(1) 希少動植物の保全方針・対策と調査・モニタリングの検討

①希少動植物の保全手法・対策の検討

【事業内容】

希少種に関して、丹沢大山総合調査や、その他の生息生育情報などこれまでに得られた各種データを活用して、専門家の知見を踏まえ、丹沢山地での希少種リストの作成に向けて情報収集するとともに、希少種の保全手法について検討する。〔関連Ⅱ－５(4)①〕

＜実施状況＞

オオタカ、ガン・カモの生息状況調査を行い、保全に係る基礎的な情報を収集したほか、神奈川県オオタカ保護指針に基づき、オオタカの生息状況調査を行い、開発事業者等へ繁殖期間中の工事について配慮を促した。クマタカに関しては、専門家の助言に基づき、森林整備や工事がその営巣に影響しないよう繁殖に配慮した。

希少動物等（ツキノワグマ、カモシカ、キツネ等）に関しては、モニタリング用に設置した自動撮影カメラの撮影記録を用いて出現状況を把握した。ツキノワグマでは、捕獲時に計測調査、標識による個体管理を実施したほか、生息状況を把握するために、県内の痕跡、目撃情報を収集するとともに、ＤＮＡ試料の収集を行った。

「神奈川県レッドデータ生物調査報告書　2006」を改訂し、県の保護上重要な野生生物（維管束植物、コケ植物、藻類、菌類）についての生態・生育状況・存続を脅かす原因等の説明を記した「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」を刊行した。これを反映した丹沢大山国定公園における指定植物の見直しについて、有識者や関係機関等への意見照会、及び自然環境審議会への報告を令和５年度中に終え、今後、環境省による法令審査等を経た後に告示される。

また、「神奈川県レッドデータブック（動物編）」の更新に向け、昆虫類・クモ類の調査を実施した。

写真6-1　ガン・カモ調査地

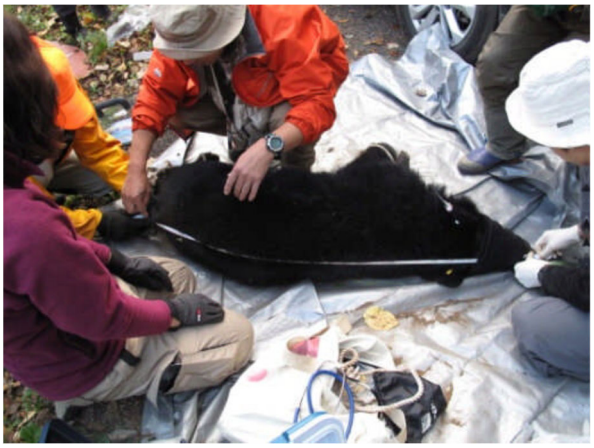

写真6-2　捕獲されたクマの計測状況

表6-1　ガン・カモ類生息観察調査　（箇所数、調査面積：ha）

項目名	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
調査箇所	271	273	271	272	272	273	271
観察箇所	189	190	186	183	175	168	167
調査面積	5,231	5,236	5,230	5,186	5,186	5,186	5,183

調査面積は概数

※太枠内は第４期計画期間

②淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討

【事業内容】
丹沢在来のヤマメとカジカについて、引き続き生息状況を把握しつつ、保全対策について検討する。〔再掲Ⅳ－５(1)②〕

＜実施状況＞
Ⅳ－５(1)②に記載のとおり。

③丹沢大山に係る指定植物の見直し・更新

【事業内容】
1982年以降指定植物の見直しが行われていない一方で、それ以降『神奈川県植物誌』が３回編纂（1988年、2001年、2018年）されて多くの新しい知見が得られたことから、指定植物を見直して公園計画を改定する。

＜実施状況＞
「丹沢大山国定公園において許可を受けなければ採取してはならない植物」の見直しについて、有識者や関係機関等への意見照会及び自然環境保全審議会への報告を令和５年度中に終え、今後、環境省による法令審査等を経た後に告示される。

④希少動植物のレッドデータブックの更新

【事業内容】
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」の改訂版に当たるレッドデータブックを生物分類群ごとに作成する。

＜実施状況＞
「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」を改訂し、県の保護上重要な野生生物（維管束植物、コケ植物、藻類、菌類）についての生態・生育状況・存続を脅かす原因等の説明を記した「神奈川県レッドデータブック 2022 植物編」を刊行した。

⑤希少動植物のモニタリング

【事業内容】
希少動植物の保全手法の検討や、レッドデータブックの更新の基礎となる各生物分類群の分布及び個体数の調査を実施する。オドリコテンナンショウ等分布の実態が不明な希少植物の分布調査では、自然環境保全センターのパークレンジャー等職員や自然公園指導員、市民科学者に協力を仰ぐ。

＜実施状況＞
「神奈川県レッドデータブック　動物編」の更新に向け、昆虫類・クモ類の調査を実施した。

(2) 希少動植物の保護・回復事業の実施

①植生保護柵による希少植物の保全

【事業内容】

奥山域で既設の植生保護柵の適切な維持管理を行うとともに、絶滅が危惧される多年生草本等の生育状況の追跡調査を継続する。また、土壌保全対策の一環として植生保護柵の設置を進めるとともに、柵の設置で回復した希少植物を保護するために持続的に維持管理する。

〔再掲Ⅰ－５(3)②、関連Ⅴ－５(1)②〕

＜実施状況＞

Ⅰ－５(3)②に記載のとおり。

②ヤシャイノデの保護増殖と現地保全対策の実施

【事業内容】

国内で南アルプスと丹沢に分布するヤシャイノデが園芸採取やシカ採食により存続を脅かされて個体数が減少していることから、第１期及び第２期自然再生計画期以来となる保護増殖を実施するとともに、現地での保全対策を検討する。併せて現地の植生保護柵内に植え戻したヤシャイノデについてもモニタリングを行う。

＜実施状況＞

平成27年度に植え戻したヤシャイノデ３個体について生育状況モニタリングを継続したところ、令和２年度に１個体が消失したものの、令和５年度の時点で、残りの２個体が順調に生育していることを確認した。

写真6-3 培養したヤシャイノデ（植え戻し前）

写真6-4 生育地に植え戻したヤシャイノデ